

卷四

甲子園短大通信

甲子園短期大学 発行



華やかに平成十八年度短大 入学式 百名　希望にあふれて

甲子園短期大学の平成十八年度入
学式は、四月四日午前十時三十分か
ら学院体育館で甲子園学院長久米利
男先生、甲子園学院理事長久米知子
先生はじめご来賓の方々のご臨席の
もと、厳粛に執り行われました。

本年度は家政学科五十五名、幼児
教育保育学科百二十九名、文化情報
学科十六名、計二百名の新入学生を
迎えました。

開式にあたり、西村健学長から次
のような励ましの式辞がありました。
「本学の建学の精神は校訓額に掲げ
られています三つの綱領からなつて
います。『黽勉努力』『和衷協同』
『至誠一貫』であります。『黽勉努
力』は自ら進んで努力すること。『和
衷協同』は皆で協調して力を合わせ
ること。『至誠一貫』はどんなこと
にも真心を尽くすことであります。

これらの三つの訓えは校祖久米長八先生の長い教育者としてのお仕事の経験の中から、人生に最も大切なものとお考えになつたもので、それらを学院創設に際し建学の精神とされたのでした。甲子園短期大学でも建学の精神にあげられている三つの綱領を校訓とし、教育の根幹としているのです。



ト近い就職決定率は本学の誇りとす
るところであります。学内、学外の
実習や大学祭などの行事を通して、
クラスメートと共に本学ならではの
楽しい時間をたくさん体験されることは
でしよう。大学は、受身で教えら
れるのではなく、積極的に自ら学び、
自ら発見する場所であります。どう
か、この大学での二年間を思い切り
意欲的に過ごして下さい。そして、

「才能を身につけ、多くの友情を育ててください。」
これを受け、新入学生代表の長谷唯さん（幼児教育保育学科）のお礼の言葉と「学院の教えである『勉強努力・和衷協同・至誠一貫』の精神を胸に甲子園短期大学の学生として、勉学に励み、より優れた人格の形式に心掛け、日々たゆまぬ努力することを誓います。」と力強い宣誓がありました。

その後、二回生による学歌の齐唱、役職者、クラス担任の紹介などがあり、厳肅なうちにも和やかに入学式を終えました。

平成十八年度入学式	ヘッドライン
高い就職決定率	2
園芸部、榮えある「市長賞」に輝く	2
家政学科ブックレット第二集発行	2
美術資料館「新緑展」を鑑賞	2
二回生高野山研修	2
オープンキャンパス2006	2
充実の「特別演習」	3
三学科はいま	3
家政学科	3
幼稚教育保育学科	3
文化情報学科	3
知へのアンテナ	4
後援会総会開催	4
好評な連携講座	4
保護者・学生合同就職説明会	4
平成十九年度学生募集要項決まる	4

高い就職決定率

十七年度も前年同様に就職決定率九十八・一パーセントと素晴らしい実績を上げることができました。

学生の努力・ご家庭および本学の全教職員の就職活動支援の成果と喜んでいます。卒業生の各方面での高い評価とともに、本学の教育が社会に認められている結果であります。毎年のように求人をいたたく多くの企業や福祉施設、幼稚園・保育所が多々あることは、その証です。

昨年度の就職状況の特色として、「家事・その他」に分類される割合が低かったこと、児童教育保育学科で、幼稚園への就職が前年度に比べて倍増したことでも倍増しています。

今年度の状況は、六月末現在、昨年度同期と比べると、より多くの求人をいただいております。今年の二回生は就職率も倍増しています。

五月十二日～十四日までの三日間、西宮市役所前六湛寺公園にて「フラワーフェスティバル in 西宮」が開催されました。今年も本学から園芸部が出展し、テーマガーデン展示部門において、長年の夢であった「市長賞」を受賞しました。テーマは「メドウガーデンによる癒しの庭」。メドウとは野原のことです。原に抱かれてホツとできる空間をイメージしました。二回生を中心に行いました。授業の合間に縫つて一回生を中心に作り上げました。準備中、市民の方からは、「甲子園短期大学は

平成十七年度実績

進学に向けて四月から活発に活動しております。六月末現在、昨年度同期比約二・六倍の採用内定をいたくという好スタートを切っています。

全員が希望の進路決定を得ることができますようしっかりと支援して参ります。

家政学科 ブックレット第二集発行

家政学科では、実践力を高めるための実習や演習に力を入れています。特に園芸は、学科開設当初から教育の柱の一つに据えています。今回、ブックレット第二集として「楽しい園芸」を発行しました。全面カラー版とし、基本となる情報を一目で得ることができるよう工夫し、園芸療法にも役立つ知識を盛り込みました。「園芸」「生活園芸」の副読本として活用し、学生にも好評です。



園芸部、栄えある 「市長賞」に輝く

きれいな庭のある大学ですね」との声を聞き、本学のイネーブルガーデンが地域に密着した施設であることを実感しました。また、開催中は多数の来場者から、「女子大生らしい優しい感じがする庭ですね」などお褒めの声をいただきました。コンテンダ・ハンギング部門では出展した二点とも銅賞を受賞し、本学の園芸教育活動が大いにアピールでき、園芸部員も自信を得ることができました。

全員が揃つて現地に向かうことで研修参加の自覚も高まり、高野路の満開の桜を友人とともに満喫することができます。現地では晴れ渡る青空の下、厳粛な気持ちで慰霊塔に参列、校祖先生のご遺骨を偲びつつ合掌しました。その後、高野の聖域を「同行一人」、弘法大師に思いを馳せつつ散策。金剛三昧院では、精進料理の醍醐味を味わいながら親睦を深めました。



本年度のオープンキャンパスは七月二十九日、八月二十九日、九月十六日、十月十五日【大学祭】の計四回開催します。昨年同様に多くの高校生や保護者の方に来校していただき、本学の多彩な特長をアピールする場にしたいと考えています。

内容としては各学科を説明した展示や体験コーナー、入試相談コーナーなどを用意しています。

オープンキャンパス 2006

案内する「学内見学ツアー」では、参加者との交流が図られ、実際の講義の様子や大学生活について多くの情報が得られます。

当日はイネーブルガーデンや生活実習ハウス、学生寮などを見学することができます。ご参加をお待ちしています。

充実の「特別演習」

昭和五十四年に一回生への初期演習として始まつた「特別演習」は、本学の人間教育の根幹をなすものとして、本年で二十八年目を迎えました。今年も「教養・常識・判断力を培い、人間性を磨き、甲子園学院が育む文化を吸収する場」との認識のもとに、担任教員を中心に教員全員の力を結集して、その運営に努めています。



ゼミ方式の基礎演習

スカツシヨン形式を採用するなど、学生の成績の成し得る所を達成するためのスケジュールが組まれています。

三学科はいま

家政専攻二回生の三泊四日の宿泊実習が、五月八日～六月八日までの五週間にわたり、生活実習ハウスで実施されました。衣食住経済の生活マネジメント能力を磨くことを目標に、担当教員の細やかな指導のもとで学生全員がグループの一員として持てる力を發揮し、成果をあげることができました。

五月二十九日から三週間にわたり、二回生が教育実習を行いました。これは幼稚園教諭免許を取得するための大きなハーダルの一つです。

今回は甲子園学院幼稚園をはじめ、兵庫県下・大阪府下の幼稚園全九十三園において実習をさせていただきました。全力を尽くして、りつぱに実習を終えた二回生は、一段と心の成長を遂げ



園芸実習場にて観察実習

家政学科

幼兒教育保育學科

文化情報学科

間と共に乗りきることも難しいものですが、一方、一回生は六月十二日から、生泊実習ハウスにおいて、二泊三日の宿泊実習を毎に体験しています。「衣・食・住・人間関係など家庭経営に必要な知識・技能を見つめ直すとともに、家庭を運営する総合的な能力を養う」「保育者をめざす学生として食生活の重要性を再認識し、日常生活における実践意欲を高める」「良好な人間関係を形成し、保育技術の習得を図る」など四つの目的を掲げ、十二月一日まで行います。本学独自の宿泊実習により、多大な成果が得られることを期待してやみません。

ました。言葉遣いや身のこなしにも顕著な変容が見受けられ、保育者としての自覚が高まりつつあることを感じさせられます。

八月二十一日から始まる保育実習が終了すると、いよいよ本格的な就職活動に邁進することになります。自信と意欲を持つて、最後の難関を仲間と共に乗りきつてしまつといふやうです。



今春から『アナウンサー養成基礎講座』の課程を開講していますが、この基幹科目が『日本語基礎演習』です。『普段話している日本語を今更なぜ勉強するの?』と諦める方もいるかと思いますが、実は『普段話す言葉だからこそきつちり学んでおく必要がある』のです。今、社会では敬語や謙譲語、電話の受け方、会議の報告などあらゆる場で適切な話し方が必要と



朝日放送ニューススタジオ見学

授業では一回生の前期で发声・発音・アクセント・鼻濁音・無声化といった日本語の基礎的なことを習得して、後期で実践トレーニングを予定しています。更に「人よりも一步リードする話し方」を身に着けるのが究極のねらいです。

また、七月二十九日のオープンキャンパスでは、OGで活躍中の坂口かずみさん（オフィスキーワード所属）を迎えて、アナウンス実践コーナーの指導と原田助教授による「プロとアマの音声の違いを波形で見る実験」を予定しています。司会・DJ・声優などに興味を持つている学生は来学する高校生に混じって一度覗いて見てください。また、その頃には、アナウンス演習室も完成の予定です。

